

問

都市

求められていることとは？
の田んぼに

「どうしてどろにさわらなきゃいけないの？」

そうって数人の園児は田んぼに入るのを渋ったのである。

園児たちと一緒に「わせでん」にて田植えを行った時のことだった。

「でも、ちょっと、**やってみたい……**」

園児の視線をたどれば、そこには田植えをする

——泥に入る園児たちの姿。

やりたいけど、いやだ。

なぜ園児は矛盾した思いを抱くのか。

そんな園児に私たちはなんと声をかければよいのだろうか。

まず考えられるのは、そもそも泥に触ったことがない、
泥というものが未知であるという可能性である。

実際に数人の園児は泥団子を作ったことがないと言っていた。

確かに、現代の子供たちの遊ぶ場所や遊び方は変容している。

公園の減少、及び公園での遊びの規制や、

泥団子を作るような遊びより TV/ ゲーム等家の中での遊びが主など、

様々な外的要因により、都市の子どもたちは土を知らない子も少なくない。

次に考えられるのは、過去泥に触ったことがあったとしても、
その経験が「**だめなこと**」として記憶されている可能性である。

例えば、汚れた服を母親に咎められてしまうといった経験。

こちらに関しては、都市において子供がある種邪魔なものと認識され、

しつけのされた子供が望まれていることが関わってくるのではないか。

子供がのびのびと遊ぶためには、いわば週末郊外に遊びに行くという

ような、特別なことが必要になる社会システムが都市には存在する。

学生NPO 農楽塾

都市の中の” 農・遊” 的空間

私たちの「わせでん」というのが都市・新宿に位置する田んぼであり、
親御さん対象のアンケートでは、農業体験ひいては自然と触れ合う機会
の重要性を認めるが、実際に体験させるのが難しいとの声があった。

さて、これまでも踏まえ私たち農楽塾ができることはなにか？

それは、「都市の中の” 農・遊” 的空間」としての立場を活用し、

新宿や早稲田の子供たちに農を通じて遊んでもらうことではないか。

答

え